

2018(平成30)年度 社会福祉法人光摂会 事業報告(案)

●法人事業報告について

1、各事業所の実績について

事業所	登録者数		1日平均利用者	
	今年度	前年度	今年度	前年度
摂津交流センターバクの家	32名	30名	25.7名	25名
バクさんのくつろぎ	12名	13名	5.35名	7.3名
ハッピーワールド	19名	19名	15.1名	17.1名
バクのパン屋さん(バクかふえ含む)	19名	18名	14.2名	14.4名
光摂ホーム	14名	13名	11.6名	11.7名
摂津障害者生活支援センターはぁねす	49名	31名		

*登録者は、平成30年3月末現在。

*1日平均利用者は、平成30年3月の1ヶ月間で計算。

2、重点方針についての振り返り

1) 組織の改革を進めていきます。

→法人事務局を設置し、定期的に事務局会議を開催しました。また、事務局会議では、理事会での決定事項の執行や、理事会議案等の検討等を中心に話し合いを行いました。また、今年度は、「中長期計画」の新たな5年について話し合いを重ね「中期計画」の素案を作成することができました。今後は、「中期計画」に沿った法人運営を実施していくために、さらに事務局会議での話し合いを深めていくことが重要だと考えられます。

2) 法人全体の財政状況の安定と安心の事業運営につとめます。

→事務局会議の中で、定期的に期間決算の確認を行い、収入状況や支出状況についても期間ごとで確認し、必要な対応等を話し合った上で取り組み等を実施しました。特に今年度は、4～7月期間決算の時点で、前年度比マイナス1000万円の減収予測がたったため、管理者等による支援学校や、相談支援事業所等への営業活動等を実施しました。利用者がすぐに増えることはありませんでしたが、支援学校の学校説明会や、相談支援事業所への営業等を通して、新規利用者獲得への法人内の意識は高まったように見受けられます。今後も、管理者等を中心とした営業活動を継続していくことが重要だと考えられます。

3) 人権尊重、自己決定・意思尊重支援の立場に立った支援をすすめます。

→今年度は、事務局会議主催の研修と、サービス管理責任者会議主催の研修を実施しました。研修内容は以下の通りです。

開催日時	内容	参加者数
平成 30 年 7 月 14 日(土)	法人(光摂会)の歴史と理念について(事務局会議主催)	29名
平成 30 年 10 月 20 日(土)	障害をこうむる方への支援について(サービス管理責任者会議主催)	28名
平成 30 年 12 月 14 日(金)	社会人としてのハラスメント理解について(事務局会議主催)	24名
平成 31 年 3 月 9 日(土)	精神科医との質疑応答(サービス管理責任者会議主催)	23名

4) 職員の資格取得(3福祉士)のための財政的支援を行います。

→今年度は、3福祉士の合格者に受験料等の財政的支援を行う旨を文章にて、職員に呼びかけました。支給対象者がなく、財政的支援は実施できませんでした。今後も、3福祉士受験者に対して、何等かの財政支援を実施していく必要があると考えています。

5) 中長期計画に基づき、平成 25 年度事業総収入比 15%の増収をはかります。

→今年度事業総収入は、平成 25 年度事業総収入比 14.6%の増収となり、前年度比 2.8%の減収となっています。

6) 法人全体の財政状況を常に公表し、補助金等の継続、新規確保とともに、財政的支援者の確保拡大をはかります。

→今年度も、ひこうせん編集委員会が中心となり、定期的に機関紙の発行を行いました。今後も、機関紙を通して、法人を応援してくれる方を増やしていく取組みが必要だと考えられます。

7) 職員の労働条件について、中長期計画に基づいて、可能な改善をはかります。

→今年度も、処遇改善加算を主な原資として、職員の定期昇給を実施しました。また、今後は、「中期計画」に基づいて労働条件の改善を実施していく必要があると考えられます。

● 摂津交流センターバクの家について

1、事業の目標の振り返り

1) 送迎職員の補充を行って、業務の効率化を進める。

→送迎職員の補充はおこなえていない。

送迎職員（運転手）となると、送迎時間（迎え：9時から10時、送り：16時から17時）のみの雇用となると難しい現状があるため、非常勤職員の補充をおこなった。そうすることで、一日をトータルで見ることができ、利用者への支援も安定しておこなうことが可能となった。また、業務分担や業務の効率化も図ることができた。引き続き、職員個人ごとに、必要な配慮をしながら働きやすい環境の調整をおこなった。また、「気づきノート」の活用により情報の共有化も定着してきた。

2) 支援の具体的な目標

・バクの家とバクさんのくつろぎでの交流バーベキュー大会の開催(11/10(土))

① 仕事のプログラムの充実を図ります。(内職作業・クッキーの街頭販売)

・内職作業について

→7月から内職作業を実施する。そこからは継続して内職作業をおこなっている。

・クッキーの街頭販売について

→月に数回ではあるが、バクの家周辺のガランド親水施設や阪急摂津市駅などに販売に行った。

2、ヒヤリ・事故・苦情の振り返り

1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	3	3	6	21	22	17	
事故	4	2	6	11	9	12	
苦情	0	0	0	0	0	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	29	25	28	26	20	22	222
事故	16	10	12	8	10	10	110
苦情	0	0	0	0	0	0	0

2) 内容と振り返りについて

・ヒヤリについて

椅子の脚や、すれ違いざまに足が引っ掛かり躓きそうになることが多かった。また、送迎車からの乗降時にも同様にみられた。完全に停車する前にシートベルトを外すこともしばしみられた。

→職員による見守りなどを強化した。

・事故について

転倒や接触などが多かった。また他害行為も多くあった。パニック状態になり利用者や職員への他害行為や、物を蹴ることや投げることなどもあった。

→その都度、対応をおこなった。

・苦情について

問い合わせの内容のものがあつた。

→一枚物の紙に落とし込めていない。今後は「気づきノート」で意見として拾い上げられるようになっているので落とし込むようにしていく。

3、工賃実績について

工賃支払い総額	1,085,510円
平均工賃	3,128円

*工賃支払総額：平成30年度1年間に利用者さんに支払った工賃の総額

*平均工賃：平成30年度1年間に支払った工賃の総額÷平成30年度1年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

●バクさんのくつろぎについて

1、事業の目標の振り返り

1) 業務の見直しを行うことで、職員の業務負担の軽減を進める。

- ・公園清掃(毎週月・木に実施)をやめて業務負担を軽減する予定だったが、今年度中には実現できなかった。しかし、4月からは、公園清掃(毎週月・木に実施)を行わない方向が決まっている。
- ・事業所から近い場所で内職業者を見つけることができた。そのことにより、引き取りや納品の時間を短縮することができた。
- ・引き続き、定期的にくつろぎ会議の開催をして考えていく。

2) 支援の具体的な目標

- ・バクの家とバクさんのくつろぎでの交流バーベキュー大会の開催(11/10(土))

① 労働の喜びやお金の価値を十分理解している利用者が多いため、よりやりがいを感じられる仕事内容と工賃アップの追求を続けます。

→新しい内職業者を見つけることができた。そのことにより、作業内容の種類が増えた。

② 利用者の年齢や体力、障害の状況が異なるため、くつろぎの利用頻度や利用時間は人によって異なり、求める支援や活動内容も多岐にわたります。すべての要求に応えるのは限界があるものの、小規模事業所の機動性を活かし柔軟対応に努めます。

→利用者個人の生活スタイルに合わせた柔軟な送迎体制を確保することができた。

③ 利用者の体力低下もあり、宿泊を伴う旅行の実施が困難になっています。しかし、日々の生活に少しでも張り合いが出るように、利用者同士が楽しく交流できる旅行に代わる行事を企画実施します。

→3月13日に日帰り旅行としてアサヒビール工場の工場見学をおこなった。利用者からは、時間がゆったりしていたことや食べ物が選べてよかったと意見があった。

引き続き、月に3度の外出活動を実施している。

2、ヒヤリ・事故・苦情の振り返り

1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	4	3	14	13	9	6	
事故	1	0	1	0	1	1	
苦情	0	0	0	1	0	2	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	7	5	5	7	13	9	95
事故	0	3	1	1	0	0	9
苦情	0	0	1	0	0	0	4

2) 内容と振り返りについて

・ヒヤリについて

送迎中に送迎車からの乗降時に踏み台を使うことがあり踏み外す場面がある。

歩行時にふらつきや接触をすることが多かった。

→送迎時の乗降の見守りの強化を実施した。

・事故について

車で運行中にブレーキをかけシートベルトの着用忘れにより顔を打つ。

公園清掃時に枝に引っかかり出血する。内職の作業中に指を切るなどがみられた。

→職員による見守りなどを強化した。

・苦情について

エアコンの温度調節や同じ話ばかりおこなうことなど利用者間のトラブルがみられた。

→その都度、対応をおこなった。

3、工賃実績について

工賃支払い総額	639,815円
平均工賃	5,376円

*工賃支払総額：平成30年度1年間に利用者さんに支払った工賃の総額

*平均工賃：平成30年度1年間に支払った工賃の総額÷平成30年度1年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

●ハッピーワールド

1、事業の目標の振り返り

1) 利用者がこれからも通所したくなるような事業所にするために、利用者ひとりひとりのニーズを認識し、少しでもできること・やりがいと一緒に見つけていく。

→今年度は、新たな作業内容の開拓を実施し、新たに内職業者と1件契約することができました。

2) より安定した運営ができるように利用者が出勤しやすい環境(送迎・支援内容)を提供できるようにする。

→今年度も、利用者の生活スタイルに合わせながら、柔軟な送迎体制を確保しました。また、事業所での生活支援が必要な利用者へは、整髪支援(髭剃りの見守り)・服薬支援(薬カレンダーへの薬のセッティング)等を実施しました。

3) 安定した工賃(平均額 13,000 円)を提供できるように既存の作業を確実におこない、新たな作業を見つける。

→主な収入となっている発送作業の工程等について、職員会議等で話し合いを重ね改善等を実施しました。

4) 職員が各々の役割を理解し確実にこなっていくことで、利用者支援の質の向上を目指す。

→職員会議を定期的に行い、その中で役割等についての話し合いを進めてきました。

5) 人は、ひとりひとり違いがあって当たり前であり、この違いを持ち味として捉え、よく理解し合い、お互いに認め合うことが大切である。そして、障害のある人が地域で当たり前で生活できることが、当たり前になる地域社会を目指し、支援の在り方をこだわり、利用者にわかりやすい個別支援計画を作成し、その計画に基づいて支援をおこなう。

→職員会議を定期的に行い、その中で、利用者さんの支援の状況等について共有する取り組みを実施してきました。

2、ヒヤリ・事故・苦情について

1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ヒヤリ	0	1	2	3	1	2
事故	0	2	2	3	4	1
苦情	0	0	0	0	0	0

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	2	4	0	1	2	2	20
事故	1	5	4	2	1	3	28
苦情	0	0	0	0	0	0	0

2) 内容と振り返りについて

①ヒヤリハットについて

・作業場での動線等の問題から発生している内容が多い。その都度、話し合い対応方法等を検討し実施している。また、対応策については、職員の声掛けの方法を改善する等のソフト面の改善策が多く、ハード面(動線の変更、建具等の改良等)の改善策はあまり計れていない状況がある。今後は、ハード面での改善について意識しながら事案の対応を行っていく必要があると考えられます。

②事故について

・作業場内、外出活動中などあらゆる場面で発生している。ただ、事案の内容については、利用者さん一人一人の生活のし辛さ(障害特性等)の理解を深めること等で対応できることも多くあると思われれます。今後、職員一人一人が、利用者さんのことをさらに深く理解していくことが必要だと考えられます。

③苦情について

・年間を通して、報告としては1件も無い状況である。ただ、実際は、支援の中で利用者さんの意見を聞いた上で、改善してきたことも多くある。今後は、職員が、「苦情」という言葉の捉え方を柔軟に考えて、意見を聞いて改善した内容も含めて「苦情」と考える必要があると考えられます。

3、工賃について

工賃支払総額	3,132,205 円
平均工賃	12,943 円

* 工賃支払総額：平成30年度1年間に利用者さんに支払った工賃の総額

* 平均工賃：平成30年度1年間に支払った工賃の総額÷平成30年度1年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

●バクのパン屋さん(バクかふえ)

1、事業の目標の振り返り

(1) 工賃について

平成 29 年度に引き続き、利用者の工賃の平均時給 100 円を目標に、パンの製造や販売等を行ってきた。

取り組み内容として、一つ目は新規でパンの販売先を開拓した。摂津市内では、「摂津いやし園」や「せつつ桜苑」への販売を行い、他市では茨木市の「住友生命」への販売を行った。また、法人内では、ハッピーワールドにてパンの販売と、バクかふえのランチ注文を新たに開始した。

二つ目は、クッキーの製造・販売に積極的に取り組んだ。平成 29 年度の時点で、クッキーは 5 種類（プレーン、ココア、コーヒー、アーモンド、ラムレーズン）だったが、平成 30 年度は新たにオレンジ、ゴマ、チョコチップ（冬季限定）の 3 種類を増やし、計 8 種類となった。クッキーの種類を増やして店頭に並べる事により、種類の違うクッキーを 1 個ずつ購入して下さるお客様が増えた。外部販売の際は、販売価格が 100 円のため手頃で買いやすいという声もあり、クッキーのみ購入されるお客様もおられた。また、利用者の家族へ周知したことにより、家族からも注文を頂けるようになった。

上記の取り組みを行い、平成 30 年度の平均時給は、時給額の見直しもあり 78 円であった。（前年度 81 円）しかし、年間売り上げは平成 29 年度に比べて 398,792 円アップしており、材料費等を除いた収支差額だけを見ると 247,984 円アップしている。新たな取り組みによって、売り上げ増にも影響があったのではないかと思う。

(2) 一泊旅行について

法人の夏季休暇期間に開所し、8 月 16 日、17 日に夏の 1 泊旅行を開催した。参加者は利用者 12 名、職員 3 名。内容については、利用者からの希望を聞き取りながら、職員間でも相談して実施した。舞洲でのバーベキュー後は市内のホテルに宿泊し、2 日目は兵庫県の手塚治虫記念館に足を運んだ。移動手段は、レンタカーを 2 台借り、職員が運転を行った。

8 月に夏の 1 泊旅行を開催するにあたり、毎年 10 月に開催していた秋の 1 泊旅行を開催しなかった。そのため、代わりとなる日帰りレクリエーションを計画したが、レクリエーション当日は悪天候で中止となり、その後も計画不足のため開催に至らなかった。今後は、レクリエーション等を開催する際は、事前に利用者からの希望を聞き取った上で、職員間できっちりと話し合っ計画を立て、実行出来るようにしなければいけないと感じた。また、利用者それぞれが望むものが違っていたり、参加者が固定化している現状を振り返り、利用者のライフステージに合ったレクリエーションの企画、開催を行っていく。

2、ヒヤリ・事故・苦情について

(1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	4	7	5	6	15	15	
事故	0	8	6	8	6	1	
苦情	2	1	1	0	0	1	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	11	36	45	58	35	31	268
事故	10	6	11	14	5	3	78
苦情	0	0	1	3	2	0	11

(2) 内容と振り返りについて

①ヒヤリハットについて

パン工房やかふえ厨房内の作業中における、調理器具の扱い方や利用者同士の接触等が、前年度に引き続き主な件数として挙がっている。原因として考えられるのは、作業スペースに対する作業人数の多さがある。なるべく作業スペースに人が集中しないように、作業の分担をしたり、出張販売や買い出し等に参加してもらう対応をおこなっている。

件数については、職員会議や職員全体会議で内容の振り返りをおこなった。しかし、全体の件数について十分な情報共有が出来ておらず、職員全体会議の際に初めて報告書に目を通す職員がいた。そのため、1月分の報告書から、事前に全職員に配布するようにし、職員全体会議にて集約をおこなうようにした。また、11月分の報告書作成の時から、件数の気づきと拾い上げについて再確認をおこなった結果、報告書に記録として挙げられている件数が増えている。

②事故について

作業中に、包丁やコンロ等の調理器具を使用したことによる怪我や、利用者の転倒事故が挙がっている。調理器具は作業において頻繁に使用するものが多いため、職員間では常に見守りと必要に応じて声掛けをおこなっている。また、利用者自身にも注意してもらうよう声を掛けている。利用者の転倒事故について、パン屋入り口に置いてあった玄関マットに足が引っかかり、転倒をしている。その後、玄関マットは撤去し、環境の改善をおこなった。利用者の身体状況に合わせて、今後も事業所内の設備や、物の置き場所の確認、十分な見守り等が必要である。

レクリエーション開催時、途中で一人で帰宅した利用者が自宅に帰れなくなり、一時的に行方不明になった。(別紙報告書参照) 今後もレクリエーション開催時には、解散場所について徹底していく。

③苦情について

パン屋やかふえの商品に関する苦情や問い合わせがあった。内容については職員間で共有し、改善策を話し合い、対応した。また、バクの家での事案の報告を受け、事業所の名刺（事業所名、住所、電話番号、FAX、メールアドレス、管理者名が記載されたもの）を作成。何か起こった際に身分を明かすためのものとして、パン屋とかふえの店舗に置き、出張販売時にも携帯するようにした。

職員による、利用者への不適切発言があり、利用者からの報告により発覚した。（別紙報告書参照）法人全体で事案の共有をおこない、会議や法人全体研修の開催をするなどして、法人として対応をおこなった。

3、工賃について

工賃支払総額	1,248,460 円
平均工賃	6,120 円

*工賃支払総額：平成 30 年度 1 年間に利用者さんに支払った工賃の総額

*平均工賃：平成 30 年度 1 年間に支払った工賃の総額÷平成 30 年度 1 年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

●光摂ホーム

1、事業の目標の振り返り

1) 職員一人一人が各々の役割を確実に行っていくことで、支援の質の向上を目指します。

→今年度も、職員全体会議(ホーム会議)を毎月開催しました。また、会議の中では、支援に関わる情報共有、支援の方向性や、それぞれの役割等について確認を行いました。なお、一度会議で決まった内容についても、定期的に振り返りを行い、必要に応じて変更等も行いながら、よりよい支援が提供できるよう話し合いを重ねてきました。今後も、会議を継続して開催しながら、情報共有の大切さ、話し合いの場の大切さ等について一人一人の職員により理解してもらう取組みを行っていく必要があると考えられます。

2) 各施設の老朽化に伴う修繕等を計画的に行っていきます。また、特に老朽化が進んでいる桜町ホーム等についての対応は、利用者やご家族との意見交換を行いながら、じっくりと方向性を検討していきます。

→家主のグループホーム運営への理解もあり、今年度は、桜町ホームの浴室改修を実施することができました。今後も、各ホームの修繕等への対応を計画的に実施していく必要があると考えられます。

3) 昨年度、退所者が1名おられ、現在空室となっている部屋の利用者確保に努めます。

→6月から新たに1名の利用者が入所し、14名の定員のうち14名が在籍している形となりました。今後は、14名の方が、少しでも過ごしやすいグループホームとなるように、支援等のさらなる充実を図る必要があると考えられます。

4) 世話人及び利用者の連絡がいつでも行えるよう、休日夜間にも対応できる携帯電話を所持しています。

→今年度も、利用者・職員が、バックアップ施設等と365日連絡を行える体制を整備した。また、今年度は、管理者・サービス管理責任者・バックアップ施設職員1名の計3名が持ち回りで、連絡用携帯電話を所持する取組みも実施しました。

5) 利用者や家族の希望に寄り添った個別支援計画に基づく支援の徹底。

→今年度も、定期的に利用者・家族との対面でのモニタリングを実施し、利用者・家族の希望等を丁寧に聴くことに努めました。

6) 利用者自治の強化(利用者による事業所の活動やルール決め等)

→今年度も安威川ホームにて、利用者会議を月 1 回のペースで実施しました。その中で、利用者からの意見をもとに、ホーム内でのルール等を作る作業も行いました。

2、ヒヤリ・事故・苦情について

1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	3	1	1	2	3	3	
事故	4	2	3	5	5	4	
苦情	1	0	1	0	0	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	0	2	4	1	3	0	21
事故	3	4	6	14	14	6	69
苦情	0	3	1	0	1	1	7

2) 内容と振り返りについて

①ヒヤリハットについて

薬の内容は間違っていないが、日付を間違い、別の日付の薬を手渡しする。朝食時の薬を飲み忘れたことに気づき、薬剤師に確認をとった上で、時間がたって服薬を行う等の服薬に関するヒヤリハットがほとんどを占めていた。

②事故について

事故は、薬の飲み忘れ等の服薬に関する事故(服薬を忘れる。薬カレンダーへのセッティングミス)と利用者から利用者、職員への他害行為がほとんどを占めていた。

特に4月～10月まで毎月1件、多い時で4件服薬に関する事故が起きていた。その為、11月に職員全体の会議で、薬の取り扱いについて確認を行った。

③苦情について

苦情に関しては、利用者、家族、関係機関から事業所への苦情が多かった。

利用者からは職員の対応に関する苦情が多く、会議等で利用者理解を深め、改善を図った。

家族、関係機関からの苦情に関しては、連絡ミス等から苦情につながったケースが多く、連絡の方法や、手段を変更し、連絡ミスが起きにくい環境を構築した。

3、通院介助の状況について(光摂ホームのみ)

通院先	30代	40代	50代	60代	70代	小計
精神科	19	20	13	14		66
内科	23	44	15	14	10	106
外科	0	0	3	0	0	3
整形外科	1	2	14	1	0	18
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0
皮膚科	1	0	6	0	0	7
婦人科	0	1	12	0	0	13
眼科	0	0	3	0	5	8
脳神経外科	0	0	0	0	0	0
歯科	0	19	16	11	0	46
合計	44 (11.0)	86 (17.2)	82 (27.3)	40 (40.0)	15 (15.0)	267 (19.0)

* 30代：女性2名 男性2名 40代：女性4名 男性1名 50代：女性3名
 60代：女性1名 70代：女性1名

* ()内は各年代での平均通院件数

● 摂津障害者生活支援センターはあねす

○ 障害者相談支援事業（摂津市委託事業）実績報告（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

相談者数

	実人員	身体障害	重症心身	知的	精神	発達障害	高次脳	その他
障害者	65	44	0	25	6	0	3	1
障害児	0	0	0	0	0	0	0	0
計	65	44	0	25	6	0	3	1

（実人員＜障害種別合計数）

支援内容（件数）

訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援 会議	関係機関	その他	計
215	121	42	168	5	45	384	51	1031



居宅事業所	日中事業所	ケアマネ
124	69	38
32%	18%	10%

支援内容（件数）

福祉サービスの 利用等	障害や病状の 理解	健康・医療	不安の解消・ 情緒不安定	家族関係・人 間関係	家計・経済
338	4	209	96	67	46
生活技術	就労	社会参加・余 暇活動	権利擁護	その他	計
154	11	49	9	48	1031

○ 指定特定相談支援（計画相談支援（摂津市指定））の実績報告

計画相談対象者：49 名

サービス等利用計画作成件数：60 件

継続サービス利用支援件数：131 件

障害者ケアマネジメント理念に基づく個別支援会議の実施状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
5	7	8	4	9	9	14	7	4	5	4	3	79回

○一般相談支援（地域相談支援（大阪府指定））の実績報告

地域相談対象者：0名

地域移行支援：0件

地域定着支援：0件

○障害当事者交流会「とにかくいっぺん集ってみよう会」実施報告

実施回数：11回

（創作活動8回、調理活動2回、社会見学「豊中市リサイクルプラザ」1回）

作品展：12月15日（日）コミュニティープラザにて開催

職員2名とボランティア3名で実施

データの分析

<相談者数と障害種別に関して>

昨年度と比較し、相談件数は200件近く減っています。その理由として、相談者のグループホームへの入居、居宅介護サービスの利用、日常生活自立支援事業所の利用などにより、これまで相談支援が担っていた役割（安否確認の訪問、通院同行、服薬管理、金銭管理など）が他の機関やサービスに移行したことが考えられます。

相談実人員は昨年度より4名増えています。65名の相談者のうち今年度の新規相談者は25名おり、そのうち半数以上が障害福祉サービスの利用を希望し、計画相談につながっています。

障害種別は身体障害が44名、知的障害が25名で身体障害が多いですが、数年前までは身体と知的がほぼ同数でした。今年度は介護保険のケアマネージャー、地域包括支援センター、訪問看護ステーションなどからの相談が増えており、それらの機関がいまだに障害種別によって相談窓口が分かれている（身体障害についてははあねすが担当）という認識が残っているためではないかと想像されます。

<支援内容（方法）に関して>

支援内容で最も多いのは関係機関で全体の約 37%を占めているのは昨年度同様です。関係機関の内訳は、居宅事業所が最も多く、続いて日中事業所となっています。ご本人の生活に日常的に深く関わっている機関からの報告や相談が多いという結果になっています。また、介護保険のケアマネージャーも増えており、介護保険との併用ケースや介護保険への移行などが多かったためと考えられます。関係機関に次いで多い支援内容は訪問で全体の約 21%、昨年の 112 件と比較すると倍近く増えています。新規相談者が身体障害、特に視覚障害の人が多く、相談支援事業所まで来所いただくことが困難なため、自宅訪問による面談回数が多くなりました。個別支援会議の件数も昨年より倍以上増えています。これは相談者が増えたことと、生活上の不安要素を抱える相談者に対し、定期的な支援会議を行ってきたことが影響しています。

<支援（相談）内容に関して>

最も多いのは福祉サービスの利用等に関する支援ですが、昨年度比では 100 件程度減っています。具体的な内容は、実際利用している事業所への希望要望や制度上の質問、通所している事業所内での人間関係のトラブルなど多岐にわたるため、項目をより細分化すると件数が変わってくることも考えられます。続いて多いのは健康・医療に関する内容で、件数は昨年より微減となっています。様々な疾患を抱えている利用者が増えており、健康状態の把握や医療機関との連携は支援する上で必須事項となっています。昨年度より増えているもので生活技術に関する支援があります。既存のサービスでの対応が難しく、相談支援が金銭含む貴重品の預かり、事務手続き代行、服薬管理などの対応をしているケースが数例あります。相談支援がそれらを担うことが必ずしも適切とは言えない中でのやむを得ない選択で、今後他法人の相談支援事業所の状況も聞きながら、対策が必要なことと認識しています。

<計画相談支援について>

今年度は、計画相談の新規対象者が 19 名増えました。摂津市障害福祉課の紹介によるケースが最も多かったものの、生活支援課、地域包括支援センター、介護保険ケアマネージャー、訪問看護ステーション、福祉サービス提供事業者などから相談されることも多く、はあねすや障害者相談支援というものが他機関に認知されてきたことを実感しています。

今年度の特徴として、介護保険サービスを利用している視覚障害者が同行援護の利用を希望するケース、サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどに入居している介護保険みなし 2 号の障害者への居宅介護サービス導入（介護保険から障害福祉への意向）が多くみられました。

また学校卒業後、一般就労も日中活動系福祉サービス利用もすることなく、引きこもりに近い状態で在宅生活を送っていた障害者からの相談も数件ありました。引きこもり生活

を送っていた人が、生活リズムを整えること、定期的に外に出ることはご本人にとって容易なことではなく、時間をかけた丁寧な関わりが求められます。同様のケースは今後増えていくと予想されます。